

地区交流会だより ~男と女 ともに築く地域社会~

昨年、男女共同参画市民協議会が行った区役員アンケートで、交流会をご希望いただいた地区へお邪魔しました。区の議決機関に女性を登用することについては、いずれの地区も前向きに考えていますが、実現するためには女性の参画しやすい条件整備や、また女性自身も意識の向上を進めていくことが必要ではないかと思われました。

昨年引き
続き2度目の
大和区
6月27日



前向きな
意見が多く出た
末広一丁目
7月19日

地区の
先駆けを
目ざして
下金子区
7月25日



先ずは
条件整備から
田辺区
8月11日

女性登用の
先進地
文出区
9月19日



女性の
積極的参画を望む
南沢町
9月30日



編集後記

先月、内閣府が発表した世論調査によると、「夫は外、妻は家庭」と考える人は47%で5割を切ったとか。しかし意識の変化に実態が追いついていない状態です。今回取材した5組の夫妻はお互いの人格を認め合い、夫も育児・家事を見事にこなしています。こんなカップルが増えれば、間違いなく日本は変わるのではないかと思います。この頃です。

ともに生きる 諏訪市民大会 講演会

女性と男性のための男性学入門

—男女共同参画社会に向けて—

- ◆とき 平成14年11月30日(土)
午後1時30分から
- ◆ところ 諏訪市働く婦人の家
- ◆講師 大阪大学大学院人間科学研究科教授
伊藤公雄先生

(入場無料・託児あります)

いきいき パートナー



(赤沼公民館にて)

9月9日に、赤沼区の食生活改善グループ「元気を出す料理教室」の皆さんと男女共同参画社会づくりをテーマとした交流会を行いました。最初に、「男女雇用機会均等法」ができるまでの苦難に立ち向かった、女性たちの挑戦を紹介したビデオを鑑賞し、その後3つのグループに分かれて懇談しました。

「均等法ができていなかったら、女性の地位は低いままだったと思う」といったビデオの感想や、「女性も地域の活動に積極的に参加し経験を積んで行こう」、「家族の理解や、子どもの頃から家事や育児、介護など皆で協力してやっていくような意識をつくって行くことが大切」など、家庭、地域の中で日頃感じていることについて、どのグループも活発な意見交換がなされました。

主な内容

- 2面～3面 「我が家の育児」
インタビュー
- 4面 地区交流会だより

子育てはあなたと私 二人三脚

「我が家の育児」インタビュー



どのように育児してまあか

Aさん家

夫、妻とも変則勤務のあるサービス業に就いているため、小学生の子どもは学童クラブに、保育園の子どもは長時間保育をフルに利用しています。迎えには行かれる方が行き、家事はできる方がやっています。2人の手が空かない時には、市内に住む祖父母にお願いすることもあります。

Bさん家

妻は夜勤をとまなう常勤社員で、現在は夫の私が家事・育児を担当しています。妻の働きたいという気持ちを尊重し、子どもの小さいうちは専業主夫でいても良いと思っています。

Cさん家

夫、妻とも常勤で働いています。未満児保育や早朝・長時間保育を利用しています。急病の時は、お互いの仕事の都合をみて休める方が有給休暇を取り、子どもの面倒をみます。どうし



今年4月、「育児・介護休業法」の一部が改正され、勤務時間の短縮等の措置の対象となる子どもの年齢を1歳未満から3歳未満に拡大し、また小学校就学前の子どものための看護休暇が新設されました。そして現在、育児休業期間の延長や、父親の育児休業取得について検討されています。

今回は、子育て真っ最中の、母親が働いている5組の夫妻に取材し、子育てをどのように実践されているのかお聞きしました。



ても2人とも休暇が取れない時は近隣市町村に住む祖父母にお願いして少し預ってもらうこともあります。

Dさん家

妻は保育園の送り迎えに間に合う時間帯でパートをしています。夫は、会社のフレックスタイムを利用して子どもを送迎してくれることもあります。子どもが急病の時はパートとは言え休暇を取りづらいこともあります。伝染病で1週間くらい休んだ時は、夫や、まだ勤めている祖父母に休んでもらい何とか乗り切ったこともあります。しかし、自分の担当している仕事の締切日など、どうしても休暇が取れない時はとても困ります。

Eさん家

夫が単身赴任中のため、家事・育児は妻の私が担当しています。自宅でできる営業の仕事についているので、子どもの急病や、長期休暇の時には、子どもと一緒にいられる時間をとることができます。また仕事に子どもをつれて行くこともあります。

2人で心がけていること 互いにしていることは、どんなことですか

Aさん家

2人とも「子どもにとってどうしたら一番良いのか」を考えながら育てていますが、子どものことだけでなく、生活全体として何がいいのか、経済的にはどうなのか、一個人としてはどうなのか、を考えながらやり繰りしています。仕事で子どもと離れている時間が多いですが、私は子どもをしっかり抱きしめて話を聞く、夫は寝つくまでの間話をしたり、本を読んだりというように、子どもとのふれあいを大切にしています。

Bさん家

夫は、育児をしてみて、家事と育児を両立することの大変さを実感したみたいです。この経験があったので、夫婦がお互いに協力し合えるようになりました。それに、夫は子どもが以前よりもっと好きになって、精神面でも技術面でも自分自身の向上につながったようです。もし、夫が仕事に就いていてこの経験がなかったら、育児や家事の大変さがわからず、お互いに協力するという気持ちも今よりは無かったかもしれません。お互いにいい勉強をしていると思っています。

Cさん家

2人とも残業はなるべくしないように、また、午後6時には皆が揃うことを心がけています。休日も家族でいろいろな所に出掛け、家族が一緒にいる時間を大切にしています。食事の後片付けや風呂掃除、ゴミ捨てなどは夫がやってくれています。その間、私は子ども達とゆっくりと過ごすことができます。子どもの歯磨き、寝かしつけ、絵本を読んであげるなどのことは、毎日2人で協力してやっているので、どちらかが仕事で留守をする時も安心して出掛けることができます。

Dさん家

子どもをお風呂に入れたり、寝かしつけは時間の許すかぎり夫がやっています。



Eさん家

普段、父親と全く顔を合わせるのできない子ども達のことを考え、半年に1度の帰国休暇(3日間位)の時には、父子・家族で過ごす時間を大切にしています。買い物も家族全員で行き、車中での会話も貴重な団らんの時間です。



育児・家事を通して、感じる こと・思うことはありますか

Aさん家

人間的にしっかりしていないと子育てはできないと考えています。何も教えなくても子どもは親を見て育つと思っています。男女共同参画については、若い世代の人の意識の方が進んでいるように思います。

Bさん家

男性がもっと育児に参加したり、大変さを理解してくれれば夫婦円満につながるのではないのでしょうか。男女共同参画=女性が働く=共働きではなく、男性だけが働く家庭も、女性だけが働く家庭もあって良いのではないかと思います。それが自然に受け入れられ、認められる社会が「男女共同参画社会」ではないでしょうか。

Cさん家

子ども中心の生活で、自分たちの時間は殆ど持てません。毎日クタクタになり大変だけれど、家の中に活気もあるし、子ども達の成長は何よりも楽しみです。夫婦で家事や育児を協力していくためには、「男性は仕事、女性は家庭」といった意識が、自分自身や家庭の中はもちろんのこと、まずは社会全体でこのような意識が変わっていくことがとても大事ではないかと思っています。

Dさん家

育児や家事の分担が、夫と妻で1/2ずつになれば、働いている女性も負担が減り助かると思いますが、できる人がやって、できない時には助けしてくれる。そんな思いやりの気持ちをお互いに持てるといいですね。